



学校だより

令和 5 年 11 月 30 日

ひびき 12月号

昭和54年3月3日制定

横浜市立獅子ヶ谷小学校

今年もお世話になりました

校長 大塩 啓介

早いもので、師走を迎えました。今年は5月に新型コロナウイルスが感染症の5類に変わったことで、世の中の変化が大きくなりました。ほぼ、コロナ禍以前に戻ってきた感じです。街を歩くと、インバウンドの人を多く見かけるようになりました。

運動会や土曜参観など、学校行事も元に戻ってきましたが、このコロナ禍で得られた知見をもとに、少しずつ変化しながら進めてまいりました。先日は多くの方にご来校いただき、児童の学習の様子を見ていただくことができました。来年度に向けて、よりよい学校づくりをさらに進めていこうと思います。

さて、私は10月にアメリカのニューヨークの国際連合を訪問する機会がありました。この国際連合が作っている UNIS (United Nations International School: 国連国際学校) という学校があります。ここには、国際連合に努めている人たちの子どもが通っていますが、もちろんそれ以外からも来ています。そこには120か国、幼稚園から高校までの1500人の子どもたちが通っていて、人種も民族もバラバラです。共通の言語は英語ですが、それ以外にもいくつかの言葉・言語が共用語として使われています。仲の悪い国同士の子どもたちも、同じ屋根の下で勉強しています。でも、そういった国々の子ども同士、仲が悪いのかというとそうではなくて、お互いの人としてのつながりがあり、普通に友達として生活しています。そこには、国境はなく、互いの国のことを尊重しながら過ごしている様子がありました。折しも、国連デーが開かれ、それぞれの国の代表的な衣装を身にまとい、文化を紹介し合うイベントの時に伺ったので、そうした雰囲気により一層強かったようです。その様子を見て、とても素晴らしいことだと感じました。日本の子どもたちは浴衣を着て参加している子どもたちが多かったです。日本にいとあまり気が付きませんが、世界にはたくさんの国々があり、その成り立ちや文化も様々で、多様な生き方をしています。もちろん、ものの考え方もそうです。そうした、互いの違いを認め合い、互いを尊重していくことは、これからグローバルな世の中を生きていく児童にとって、とても大切なことだと感じました。

詩人金子みすゞさんの、「私と小鳥と鈴と」の中の「みんな違ってみんないい」という詩の一文を思い出しますが、人権週間が12月4日から始まるのに合わせて、11月下旬から月曜日の朝に人権について話をしています。獅子ヶ谷小学校が、こうした互いを尊重し認め合っていく学校になっていくよう努めてまいります。